

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 D-1-3 事業名 道路事業（市街地相互の接続道路）（一）荒浜港今泉線（鳥の海）
事業費 総額 691,226 千円 （内訳：調査測量設計費 27,591 千円，用地補償費 149,514 千円，工事費 514,120 千円）
事業期間 平成23年度～平成29年度
事業目的・事業地区 亶理町では「安全で安心な防災まちづくり」の「主な事業等」として、渋滞緩和対策などの道路整備を行うこととしている。 （亶理町震災復興計画 P20・P21「安全で安心な防災まちづくり」） 本路線は、亶理町の荒浜地区から逢隈地区中心部を接続するものであり、東日本大震災による津波により壊滅的な被害を受けた市街地から各集落を接続する道路を整備し、被災地間の交通円滑化を図ることで快適な生活環境確保と地域活力の創造に資するものである。また、復興まちづくり計画の一環で当該区間を津波浸水対策のための二線堤の役割として、道路の嵩上げ整備を行う。
事業結果 整備前：L=1,250m，W= 5.0(6.0)m 整備後：L= 700m，W= 6.0(11.5)m <平成25年度> ・調査測量設計 23,114 千円 <平成26年度> ・調査測量設計 4,477 千円・用地補償 140,083 千円・工事 41,470 千円 <平成27年度> ・用地補償 8,646 千円・工事 218,972 千円 <平成28年度> ・用地補償 785 千円・工事 128,298 千円 <平成29年度> ・工事 125,379 千円 ・平成30年4月27日より供用開始  【整備前】  【整備後】

事業の実績に関する評価

①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

- ・東日本大震災による津波により壊滅的な被害を受けた荒浜中野地区の防災集団移転地から逢隈地区中心部を接続する十分な車道幅員や歩道を有する道路を整備し、被災地間の交通円滑化が図られ、快適な生活環境確保と地域活力の創造に資するものであると評価する。

②コストに関する調査・分析・評価

- ・事業費の設計・積算は宮城県の土木工事標準積算基準等により実施し、宮城県建設工事執行規則等に基づき入札し業者が選定されている。また、事業内で発生した残土については事業内および隣接事業間で流用土調整を行うなどコスト縮減に努めることで、資材単価や労務単価が上昇する厳しい状況下にあっても、経済性が確保された事業執行となっていることから適正であると評価する。

③事業手法に関する調査・分析・評価

<想定した事業期間>

- ・調査測量設計 平成24年4月～平成24年6月
- ・用地買収 平成24年6月～平成24年12月
- ・工事 平成24年11月～平成28年3月

<実際に事業に有した事業期間>

- ・調査測量設計 平成24年4月～平成26年1月
- ・用地買収 平成24年12月～平成26年10月
- ・工事 平成26年1月～平成27年12月
- ・調査測量設計および用地買収については、関係機関や地権者との協議に不測の日数を要し遅れが生じた。
- ・工事については、用地買収の遅れが見られるなか、用地取得箇所から着手することや支障物件の移設時期の調整を行うなど工程短縮に努めることで、工事期間の短縮を図った。
- ・用地買収などの遅れにより事業完了に遅れが生じる可能性があったが、その後の工事などで適切なフォローアップを行い、事業完了できていることから事業手法は適正であると評価する。

事業担当部局

宮城県土木部道路課道路建設班 022-211-3163